

えひめ豪雨災害支援情報共有会議の いままでとこれから

社会連携推進機構
地域連携コーディネーター
前田 眞

えひめ豪雨災害支援情報共有会議（えひめ会議）とは

7月7日の西日本豪雨災害支援にあたって

被災地で、「今求められること」を共有し、「これから望まれること」を想定しながら、長く活きた支援につなげるための情報共有が目的で、岡山、広島、愛媛で展開しています。

NPOや企業、経済団体など、ご関心のある方はどなたでも参加できるネットワークです。

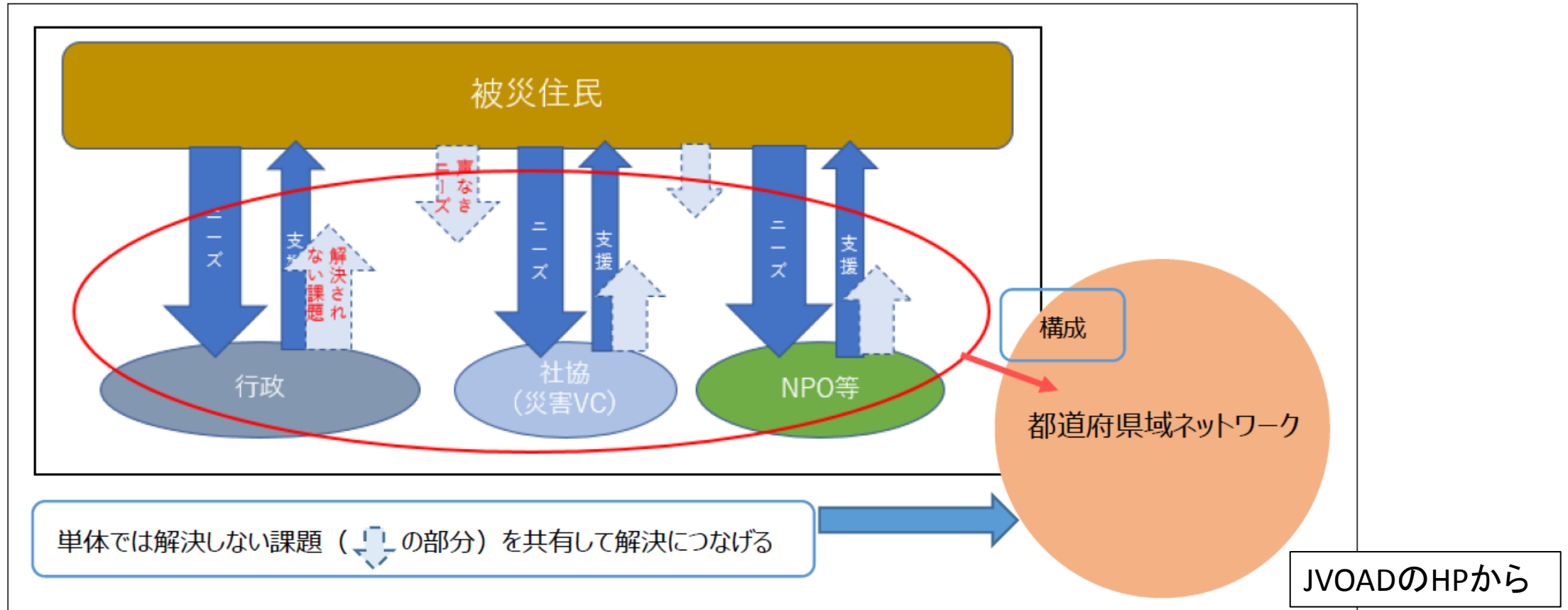
愛媛県では、JVOAD（特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）の支援により県、各市町、各市町社協、えひめリソースセンター他県内外のNPO・ボランティア団体、青年会議所などが任意に参加しています。

II .JVOAD がパートナーシップを結ぶ、都道府県域ネットワークについて

■ 都道府県域ネットワークの構成

原則として、都道府県域をカバーする以下の 3 組織が含まれるネットワーク（3 者連携）をベースとします。もしくはこれら 3 組織の連携が取れているネットワークであることが求められます。

- ◎行政
- ◎災害ボランティアセンター設置主体（主に県社協）
- ◎NPO 支援センター等（NPO の中間支援組織）



えひめ豪雨災害支援情報共有会議の構成

コア会議（当初は月から金曜日、今は週1回）

えひめ会議（県域）県・市・社協・ボランティア・NPOなど最大90名程度
（当初は週1回、現在は2週に1回）

西予（野村）会議
原則週1回

牛鬼（宇和島）会議
原則週1回

おんむすび（サロン）会議
原則週1回

コア会議のメンバー (情報共有会議の呼びかけ人)

- 愛媛県
- 愛媛県社会福祉協議会
- 特定非営利活動法人えひめ311
- 特定非営利活動法人えひめリソースセンターほか県内NPO等
- 特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)
- 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)
- 特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD)
- 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)



えひめ会議の基本的な進め方

1. 更新・新着情報の提供

1-1. 行政からの報告

1-2. 社協からの報告

2. 市域会議の報告

2-1 西予(野村)会議の報告

2-2 牛鬼会議・おんむすび会議

3. 支援団体からの報告

4. 勉強会

えひめ会議の基本的な進め方

1. 更新・新着情報の提供

1-1. 行政からの報告

- 愛媛県（保健福祉課・危機管理課）

愛媛県の復興状況及び復興計画、被害状況
シェイクアウトえひめ 12月17日・11時に実施

・西予市

仮設住宅 野村13戸の空きが残り4戸、明間は2戸が完成し入居が終わった。岩城は11月中旬に完成予定。

公費解体 被災が大きかった三島地区では業者と被災者の打合せが始まる。

農業ボランティア 10月22日にアンケート回覧開始。

自治組織 1月の設立に向けて動いている。

- 大洲市社協

災害ゴミの受付 8月末で終了しているが、個別対応を民生活課で行っている。

公費解体の相談と申請

随時：相談は受けているが発注は行っていない。

- 宇和島市社協

10/21、10/29に生活再建アセスメント会議を2回実施した。終の棲家が決定した方が6世帯いる。

1-2. 社協からの報告

愛媛県社協 災害ボランティアセンターは10月末に閉所する見込み。東京チームは「ふれあい喫茶」を11月も継続して実施する。

西予市社協 見守り活動は仮設団地を中心に行っている。日中は不在の家庭が多く土日の対応を相談している。

公費解体 家電や家財の運びだしのニーズが多い。

明間のニーズ解決は、今週末で終わる見込みだが、随時、相談しながら進める予定。ボランティアを派遣した家庭で裏山が崩落した家庭から「最近、不安で眠れない」との相談にも対応している。

大洲市社協

災害ボランティアセンターの動き

先週末もボラセンを開設し、消毒・ブラッシングを行っている。
11月3日が地方祭なのでボラセンは休止、4日はボラセン開催。
総合福祉センター内のイベントで10日、11日は休止。

支え合いセンターについて

仮設の炊き出しを行った。年末に向けて餅つき等の申し出が出ていたので、随時調整していく。仮設中心に見守り活動を行っている。

宇和島市社協

災害ボランティアセンターの動き

土日型に移行し、10月20日にニーズがゼロになったため、災害ボラセンは閉じた。今後は、事前登録制を検討している。

支え合いセンターについて

再建実務者会議を行い、みなし仮設・建設型仮設を中心に対応をしている。

冬物衣料の相談は、うわじまグランアが行う物資配布活動で対応している。

東京チームの「ふれあい喫茶」には、今までで567人にご参加頂いた。

11月6日には、ひちくボランティアセンターの足湯サロンを行う予定。

2. 市域会議の報告

2-1 西予(野村)会議の報告

前回の会議は、仮設住宅での芋炊きを行った。

2-2 牛鬼会議・おんむすび会議

Mステーションではボランティア不足がある。

サロン活動では、今回の災害で防災ラジオが壊れて広報が届いていないため、サロン活動を通じて配布を拡充していく予定。

次回の牛鬼会議は吉田公民館でランチミーティングを行う予定。

3. 支援団体からの報告

災害NGO結

床下案件はゼロになった。東京からの企業ボランティアは農地ボランティアに入った。結は宇和島に拠点を置きながら活動を実施していく。11月3日のお祭での企画を計画している。宇和島のミカンを広島・岡山へもっていくことでの交流を図っていく。

4. 勉強会

• 4-1. ひちくボランティアセンター 松永鎌矢様

発災から約3カ月が経ち、フェーズの変化に伴い、住民の方々の困りごととも変化してきます。市域での災害対応をどう変化させていくのかについて、九州北部豪雨の災害対応を日田市で行われている松永鎌矢様をお招きして、活動の事例等について研修した。

全てみなし仮設77世帯から、35世帯へ(現在)。仮設、みなし仮設以外で避難している人たちの把握が課題。

応急修理が完了 & 新築完成に伴い、みなし仮設から再建への引っ越しのお手伝い。

1周年に意識を高めるイベント実施

ひちくボランティアセンターの person 費は地域おこし協力隊制度で意識の風化防止(ボランティアへの報告書、市長のお礼状)

支援をし過ぎると、自身の自立を阻害することが懸念されるが、一人一人の状況を踏まえて考えること。公平平等では被災者を救えないため、不平等で支援をする意識をしていた。

外部支援団体等がいなくなった時に、支援の仕組みを残すためには、地域の選択

えひめ(県域)会議の様子



えひめ
会議の
参加者
(90名)

No.	団体名
1	愛媛県 保健福祉部 社会福祉医療局 保健福祉課
2	愛媛県 県民環境部 防災局 防災危機管理課
3	愛媛県社会福祉協議会 地域福祉部
4	宇和島市 保健福祉部 福祉課 障害福祉係
5	宇和島市社会福祉協議会
6	西予市 復興支援課 野村復興支援室
7	西予市 総務企画部 復興支援課
8	西予市 総務企画部 復興支援課
9	西予市 総務企画部 復興支援課 野村復興支援室長
10	西予市 総務企画部 復興支援課 復興総務係
11	西予市 総務企画部 復興支援課
12	西予市 総務企画部 まちづくり推進課 地域振興係
13	西予市役所 野村支所 総務課
14	西予市教育委員会 野村教育課
15	西予市 社会福祉協議会
16	西予市 福祉事務所 福祉課
17	西予市野城総合福祉協会 野村育成園
18	大洲市社会福祉協議会
19	今治市社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課
20	今治市社会福祉協議会 地域福祉課 今治支部
21	熊本市 市民局 市民生活部
22	熊本市 都市建設局 都市政策部 都市政策課
23	西東京市社会福祉協議会 西東京ボランティア・市民活動センター
24	宇和島市議会議員
25	宇和島青年会議所
26	宇和島青年会議所
27	宇和島青年会議所、愛ほっと
28	宇和島市吉田町地域おこし協力隊
29	愛媛大学 社会連携推進機構 教授
30	愛媛大学
31	愛媛県立医療技術大学

32	NPO今治センター
33	愛媛弁護士会
34	U.granma
35	U.granma
36	シルミルのむら
37	イル・フィオーレ
38	坂本くみを応援する会
39	四国地区曹洞宗青年会
40	四国地区曹洞宗青年会
41	四国地区曹洞宗青年会
42	シャンティ国際ボランティア会
43	プラン・インターナショナル
44	プラン・インターナショナル
45	ヘルピングハンズ
46	ヘルピングハンズ
47	ヘルピングハンズ
48	ヘルピングハンズ
49	創価学会
50	創価学会
51	結
52	ユナイテッドアース
53	ユナイテッドアース
54	ユナイテッドアース
55	YNF
56	轍(わだち)
57	共生地域創造財団
58	パルシック(PARCIC)
59	グッドネーバース・ジャパン
60	ひちくボランティアセンター

豪雨災害・支援情報・共有会議(仮称) 参加者リスト 2018年8月6日(月)

61	バルビー
62	バルビー
63	バルビー
64	バルビー
65	日本弁護士連合会 災害復興支援委員会
66	国土防災技術株式会社
67	生活クラブ生活協同組合・東京
68	百姓百品
69	百姓百品
70	農業研修生
71	消防防災科学センター
72	ジョージ防災研究所
73	シリキリヤ倉庫
74	日本防災士会愛媛県支部
75	愛媛新聞社 報道部 記者
76	株式会社リプル エフェクト
77	アンティークなずな
78	ブランジュリ リズ
79	Gattonero
80	チアアップえひめ
81	チアアップえひめ
82	チアアップえひめ
83	チームさくぼ
84	BPPT桜梅桃李
85	くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)
86	八幡浜みなととみなと交流館

87	えひめグローバルネットワーク
88	ジャパン・プラットフォーム(JPF)
89	いわて災害支援ネットワーク
90	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)

牛鬼会議の様子（ニーズや役割分担の共有）



牛鬼会議・地域の要望に応じた泥だし研修



8月11日 宇和島情報共有会議【第1回 牛鬼会議】

団体名
1 宇和島青年会議所
2 宇和島青年会議所
3 U.granma
4 U.granma
5 宇和島市 保健福祉部
6 宇和島市 保健福祉部 高齢者福祉課 地域包括支援センター
7 宇和島市社会福祉協議会 地域福祉課
8 宇和島市社会福祉協議会
9 愛媛県 社会福祉協議会
10 くまもと災害ボランティア団体ネットワーク
11 愛媛大学 社会連携推進機構 教授
12 YNF
13 元気でおるけんね
14 坂本くみを応援する会
15 神奈川レスキューサポート バイクネットワーク
16 パルシック(PARCIC)
17 JAえひめ南
18 パルビー
19 パルビー
20 パルビー
21 つかさ税理士法人
22 高知県社会福祉協議会
23 オープン・ジャパン
24 結
25 ひちくボランティアセンター
26 チアアップえひめ
27 lf(イル・フィオーレ)
28 lf(イル・フィオーレ)
29 吉田町てをつなぐ育成会・オープンスペースきゃっち
30 新倉花店

31 宇和島市吉田町地域おこし協力隊
32 ユナイテッドアース
33 ユナイテッドアース
34 ユナイテッドアース
35 支援P コミュニティ・4・チルドレン
36 支援P NPO高知市民会議
37 支援P 災害情報支援ポータル
38 INTERSTUDIO
39 -
40 -
41 -
42 創造アトリエあぶりこつと
43 愛媛新聞社 報道部 記者
44 愛媛新聞 南予支社
45 四国環境マートナーシップオフィス
46 えひめりソースセンター(えひめグローバルネットワーク)
47 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
48 ジャパン・プラットフォーム(JPF)

牛鬼会議の参加者と その記事

松山市文京町

豪雨災害 宇和島復旧情報共有

市社協など参加50人意見交換

西日本豪雨で被災した宇和島市で災害支援に当たっている市社会福祉協議会やボランティア団体などによる情報共有会議が10日、同市文京町の鶴島公民館であった。参加者約50人が一日でも早い復旧復興に向けて意見を交換した。

(一面参照)
県内被災地で市単位の開催は初めて。同市で活動している団体が多いことから、NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(東京)と同ジャパン・プラットフォーム(同)などが呼び掛けた。

会議では、ボランティアセンターへの支援や避難所運営などの課題ごとに、6グループに分かれて意見交換。参加者は同市吉田地域の被災者らから聞いた要望や悩みなどを出し合い、地図にシールを貼り情報を整理していった。

意見発表では「部活動の用具が水に漬かって使えなくなり、十分な練習ができない」「周囲の方が被害がひどい」と感じている高齢者が支援を我慢しているなどの声が上がっており、細かなニーズの掘り起

「こしやワンストップで支援を受け付ける体制づくりが必要だとする意見も出ていた。」

事務局を務めるNPO法人えひめりソースセンターの竹内よし子理事長は「地域を限定することで、被災者のニーズを深く抽出でき

たのは大きい。必要に応じて大洲、西予の両市での開催も検討したいと話した。次回の宇和島市の会議は17日午後6時からの予定。問い合わせはメール ehim.orc2018@gmail.com (石田一真)



被災者などから聞いた情報を話し合う参加者 10日午後、宇和島市文京町

天気



12日9時予想図

サマー大バザール開催中!
釣興のフレンド ☎089-974-4164

愛媛新聞8月12日

情報共有会議のこれから

～緊急支援(災害ボランティアセンター)から
生活の再生(地域支えあいセンター)へ
さらに中間支援組織へ～

避難所が閉鎖、災害ボランティアセンターが閉鎖され、緊急支援が一段落し、地域支えあいセンターに活動の場が移っていく。

2年間の間、地域のコミュニティを創設、あるいは再生、維持していくことが求められる。

避難所 否応なく情報は入ってくる

仮設住宅、みなし仮設住宅、自宅、親せき宅への避難者
情報を得にくい。広報(伝える)の対象が把握しにくい。
広聴(ニーズ等の把握)の仕組みを変えること

社会問題化する地域の生活課題(災害時も平時も)

- 高齢者の安否確認
 - 虐待
 - 孤立死
 - 徘徊死
 - ひきこもり
 - 子育ての支援
 - 日常の困り事支援(部屋の掃除、電球換え、ゴミの分別、粗大ゴミ出し、庭の草取り、おかずづくりなど)
 - 要配慮者への配慮
- 生活困窮者対応
 - 自死防止
 - 認知症対応
 - 高齢者に対する詐欺的商法
 - ゴミ屋敷
 - けが、病気時の支援

これからは

地域社会が持っている様々な資源を地域の住民が共有し、より魅力的なものにしていく

限られた資源を持ち寄りつなぎ合わせる必要がある

異なった分野やセクター、立場の人々をつなぎ、一人ひとりの能力を十分発揮できる参加型の場づくりを演出するコーディネーターやファシリテーターなどの中間支援者の存在が欠かせない

参考： 地域づくりに必要な**主な力**は

感性**力** 共感**力** 共有**力** 発信**力** 広報**力** 蓄積**力**

理解**力** 表現**力** 受援**力** 受渡**力** 巻込**力** 集約**力**

応援**力** 支援**力** 進行**力** 協働**力** 突破**力** 経験**力**

味覚**力** 知識**力** 知恵**力** 説得**力** 受楽**力** 提楽**力**

創造**力** 傾聴**力** 調査**力** 行動**力** 指揮**力** 向心**力**

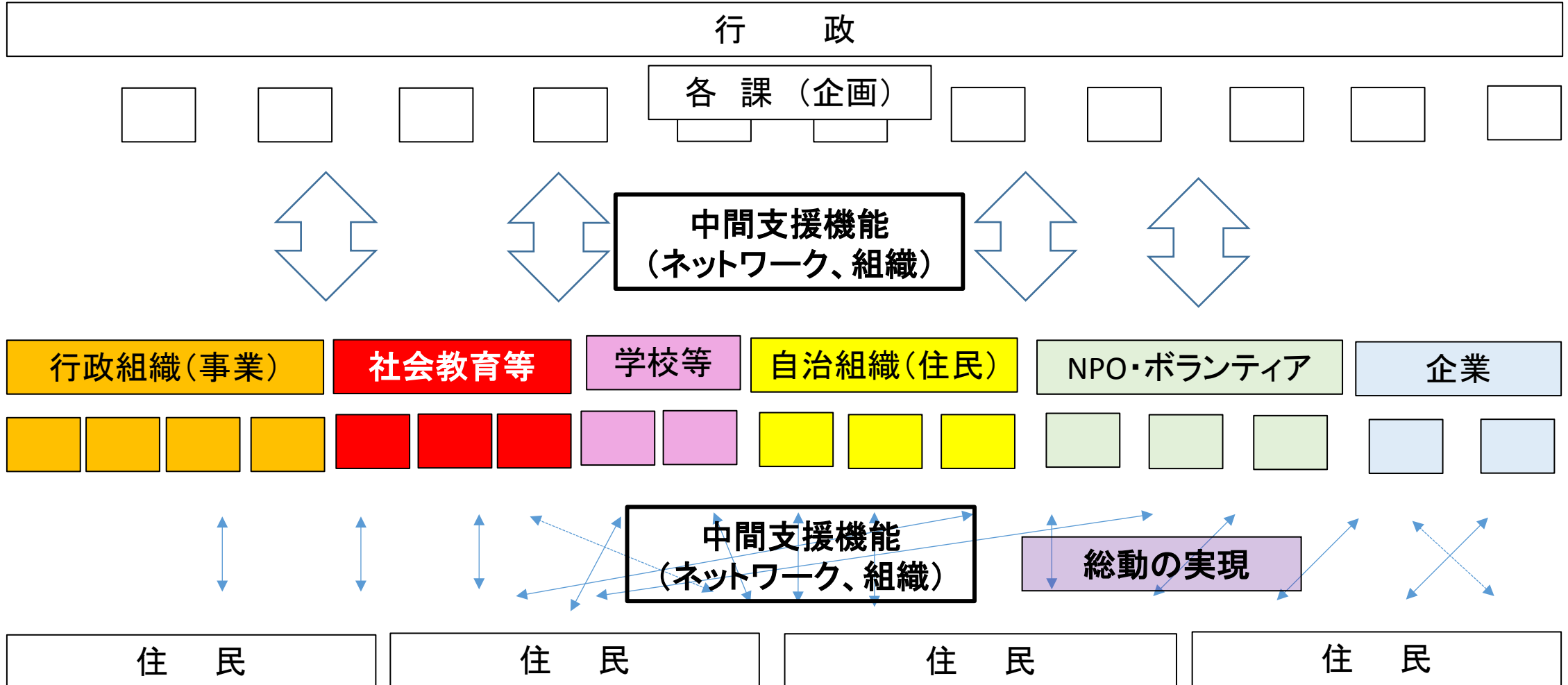
企画**力** 分析**力** 想像**力** 収益**力** 持続**力** 中止**力**

注意**力** 自立**力** 推進**力** 資金**力** 調達**力** 空間**力**

美化**力** 生存**力** 筋**力** 会話**力** 構成**力** 組立**力**

IT**力** デザイン**力** などなど**連携・協働**していく**力**

総働型エリアマネジメント力を持つ中間支援機能 (組織、ネットワーク)の創出が求められる



住みやすい地域を創るためには、対価性が少ないけど必要な事業、対価が取れる事業の組合せが求められる

中間支援組織(県域・市町域)づくりの課題

地域づくりでの中間支援組織設立の機運(必要性)の醸成

→住民に向けて、NPOボランティアに向けて
行政に向けて

中間支援組織の検討

→公設公営、公設民営、民設民営

地域づくりでの中間支援組織機能創出及び強化の目標設定

→①～⑧(次ページ以降)の能力育成の
優先順位・役割分担の設定

中間支援に求められる能力

①構想力(妄想力)

政策提案・社会提言能力や企画立案能力

②相談助言力

インタビュー能力やカウンセリング能力

③人的資源開発力(人の力を見出す力)

人材の養成や人的資源の開発能力

④財源マネジメント力

財源の開発や財務管理への助言能力

中間支援に求められる能力

⑤組織運営力

組織運営やグループワーク力

⑥広報企画力

情報の発信や啓発活動の企画立案力

⑦ネットワーク力

異なる活動者・団体や推進組織・施設の相互調整力

⑧評価力

活動を客観的に評価・分析する力